



誰が SDGs に 取り組むの？

2030 年を達成期限に、世界が力をあわせて取り組んでいる「持続可能な開発目標 (SDGs)」。昨年、亀岡市も「優れた SDGs の取り組みを提案する地方自治体」として、内閣府から「SDGs 未来都市」に選ばれました。

それでは、SDGs の達成に向けて一体誰が行動する必要があるのでしょうか。

その答えは、「すべての人」です。

例えば、市役所がいくらがんばっても、豊かな亀岡の自然を、私たちの孫や、その先の世代まで引き

継いでいくことは難しいでしょう。

というのも、たった一人の誰かが、外来魚を市内で放流してしまうことで、亀岡の生態系のバランスが崩れてしまう可能性もあるのです。

実際に、市公式ホームページでも、上流にあるため池などに生息



外来種による生態系への影響は、SDGs のゴール 15「陸の豊かさを守ろう」に関係する

している外来魚「オオクチバス」などが侵入し、「アユモドキ」が食べられてしまう可能性が指摘されています。

こうした外来種の問題だけでなく、SDGs には世界中の課題が集約されています。その達成には、国や市役所だけでなく、企業、そして市民一人一人の協力が必要です。

たかぎ ごすも

高木 超



▶ 慶應義塾大学大学院
政策・メディア研究科 特任助教
亀岡市参与 (SDGs アドバイザー)